

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2024年5月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全 般	・ ・ ・ 3
2 各軍等	・ ・ ・ 4
3 対台湾動向	・ ・ ・ 9
4 対日動向	・ ・ ・ 12
5 国境地域等での活動	・ ・ ・ 16
6 軍事外交	・ ・ ・ 20
参考文献	・ ・ ・ 23

1 全般

5月1日の労働節に合わせ、空母「福建」の初の海上試験やH-6K爆撃機からのALBM発射画像公開等、士気高揚を兼ねた各種装備品の開発の進展が確認された。

5月23～24日、中国人民解放軍東部戦区は、頼清徳台湾総統の就任を受けて陸、海、空、ロケット軍等による統合演習「聯合利剣2024A」を台湾周辺で実施した。訓練周期の関係もあり、海上封鎖態勢確立までの訓練が主であったが、海警との連携等に進展が見られた。

対外行動に関しては、台湾・フィリピン（以下、比）に対する強硬姿勢を継続している。特に中国海警船による法執行パトロールの常態化、法執行演習の実施等その度合いをエスカレートさせた。また、6月15日から施行予定の「海警機構行政法執行手続規定」を發布し、行動の法的根拠を整備した。

日本に対しては、対領空侵犯措置において、WL-10偵察／攻撃型無人機が初確認され、飛来する無人機の性能等を年々向上させている。尖閣諸島周辺では特異な事象は確認されなかったものの、台湾・比周辺海域でのエスカレートさせた手法を尖閣でも利用できるため、「海警機構行政法執行手続規定」施行後の海警船の動向に注視する。

2 各軍等

(1) 統合・協同訓練

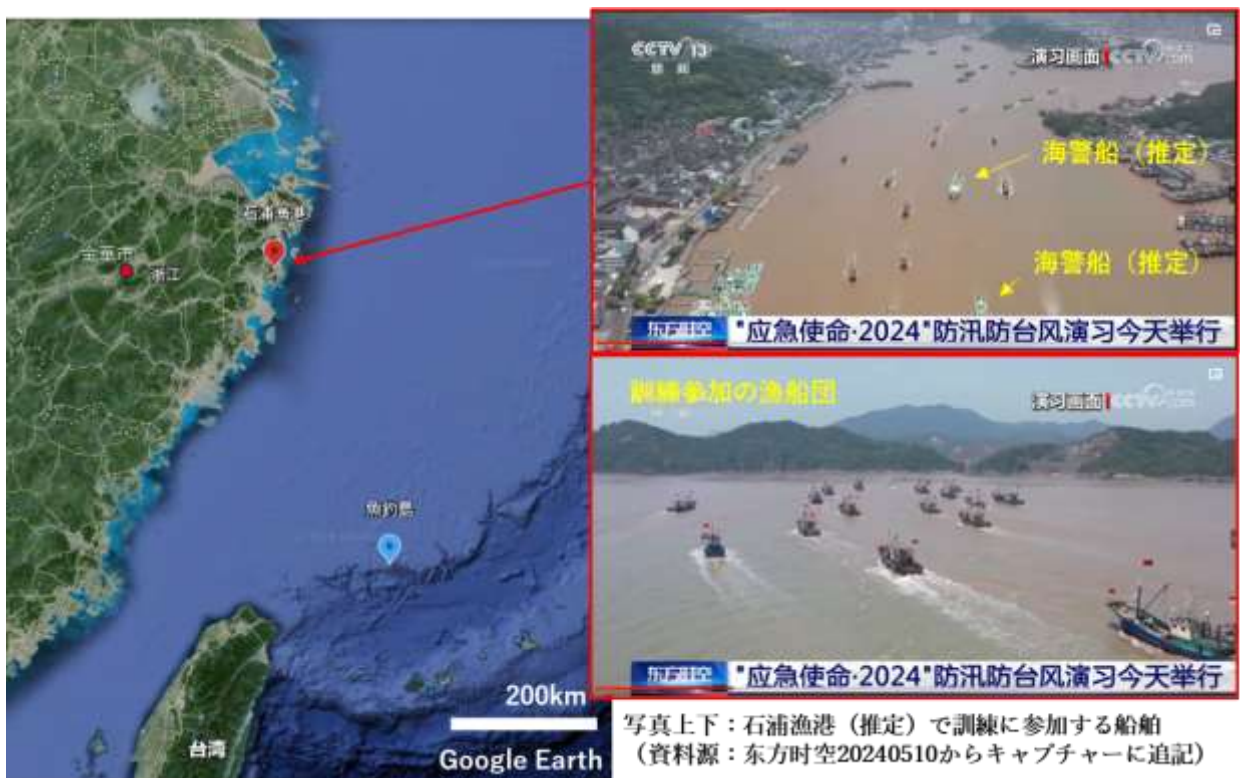
○ 統合演習「聯合利劍-2024A」

5月23～24日、中国人民解放軍東部戦区は、頼清徳台湾総統の就任を受けて陸、海、空、ロケット軍等による統合演習「聯合利劍 2024A」を台湾周辺で実施した¹。訓練周期の関係もあり、海上封鎖態勢確立までの訓練が主であったが、海警との連携等に進展が見られた。

細部は中国安全保障動向報告（2024年5月31日）「聯合利劍 2024A」参照

○ 対水害演習「応急使命 2024」

5月10日、国家水害早魃指揮部弁公室、応急管理部、浙江省政府が金華市等において大水害統合救援演習を実施、軍も参加した。東部戦区が解放軍・武装警察部隊・民兵等450人及び装備器材130以上を統一指揮し、浙江省の軍民両用システムが稼働して軍の前線応急支援を実施した²。



【コメント】

東部戦区が当該訓練において、軍・武装警察・民兵を統一指揮をしたとあり、有事の際の武装力の統制や政府機関等との連携、民間アセットを活用の演練も兼ねた演習と言える。

また、漁船団と共に海警船（推定）が航行しており、漁船団を軍民両用システムに組み込んだ訓練を行い、東部戦区指揮下の海警船が漁船団を統制した可能性がある。

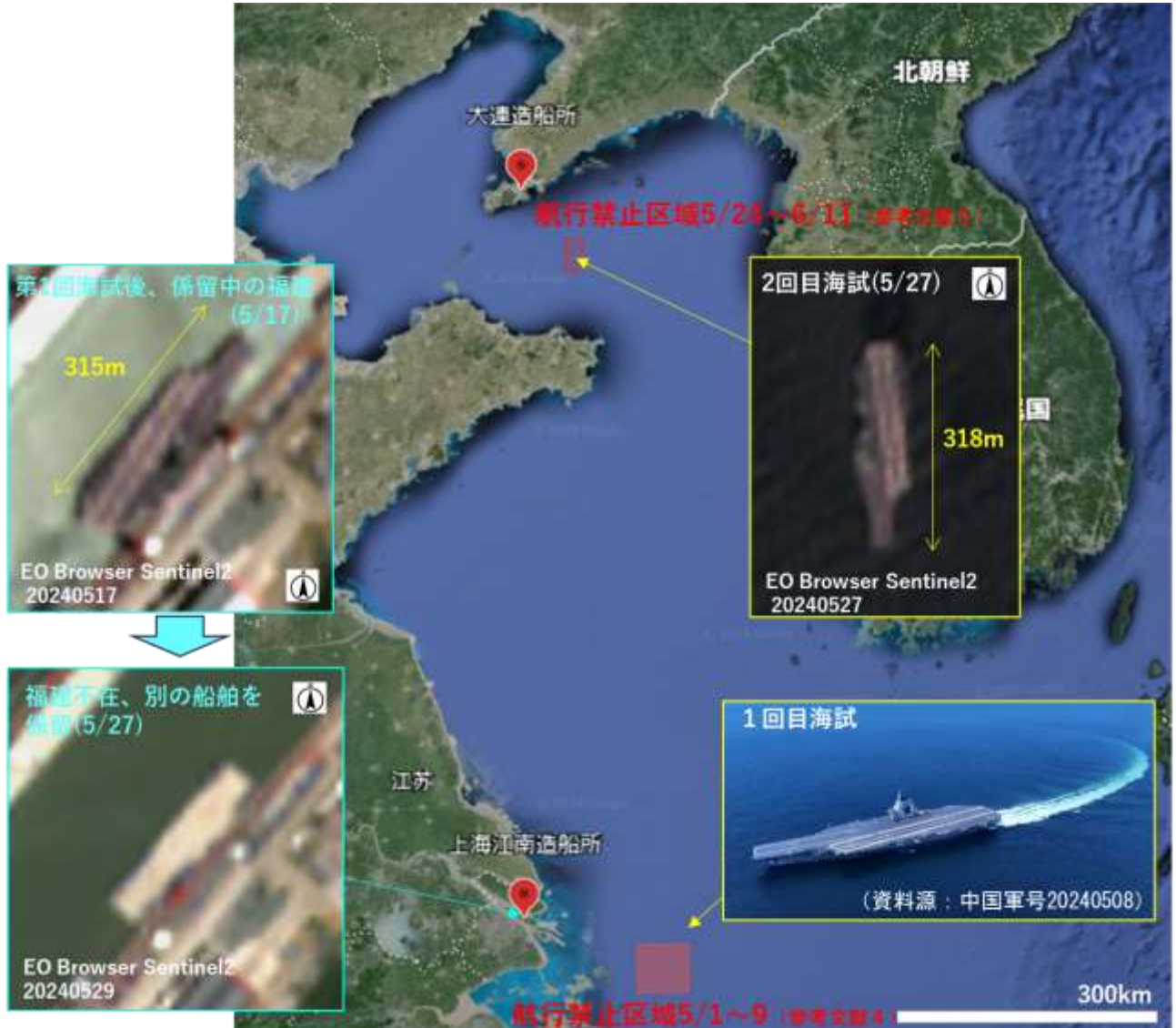
特に、今回映像で確認された漁港は、地形から中国4大漁港の一つとされる石浦漁港と推定される。当港は、禁漁明けに東シナ海へ船団を組んで出港する様子がしばしば報道されており、尖閣諸島周辺海域でも活動する漁船の母港の可能性がある。これらが東部戦区の指揮下の海警の統制を受け、漁船団として行動する訓練を実施しており、尖閣周辺海域でも同様の活動が可能と言える。

(2) 海軍

○ 空母「福建」

5月1～8日、中国海軍空母3番艦、国産空母としては2隻目の「福建」が初の海上試験を実施。動力・電力等のシステムの試験を実施し、予期の結果を得たと公式に報道³。

また公式の報道はないものの航行禁止区域の設定等から、同艦は5月22日に再び出港し、5月24日から6月11日の間黄海北部で2回目の海上試験の実施している可能性がある。



【コメント】

福建は中国初の電磁カタパルト式空母であり、2022年6月17日に進水、5月1日から初の海上試験を、5月24日以降、2回目の海上試験を行った可能性大。

1回目は建造を行っている江南造船所から約135kmの航行禁止区域で実施したが、2回目は約850km離れた大連造船所（空母遼寧・山東を建造）の南方の黄海で実施しており、中国側の発表の通り、動力・電力等のシステムの試験に問題がなかったため、航行距離を延長した可能性がある。

一方、電磁カタパルト搭載の為、艤装期間約22か月は国産一番艦「山東」の13か月に比し長く、今後就役までに要する海上試験の期間も山東の費やした19か月よりも長期化する可能性がある。

(3) 空軍

○ H-6K 爆撃機からの ALBM 発射画像公開

5月1日、空軍が公開した映像で H-6K から KD-21 と推定されるミサイル発射が確認された。同ミサイルは極超音速の空中発射型弾道ミサイル（以下、ALBM）で、2022年珠海エアショーで初公開時には 2PZD-21 として展示されていた⁶。



H-6K のパイロンから発射された KD-21
(推定)

(資料源：百度視頻からキャプチャー)

また、同日の CCTV「軍事報道」では H-6K による地上・海上目標に対する爆撃訓練の様子が放映された⁷。



左：地上目標への爆撃 右：海上目標への爆撃（資料源：軍事報道 20240501 からキャプチャー）

【コメント】

今回放映された爆撃画像で使用されたミサイルの種類は不明であるが、H-6K が既に極超音速 ALBM の訓練を実施していること、H-6K による地上・海上目標に対する精密打撃訓練を行っていることを喧伝する映像である。

中国は A2AD の手段としてロケット軍各種ミサイルの開発・配備と同時に空軍爆撃機用のミサイル開発・配備も重視している。報道では H-6K の行動半径 3500km、KD-21 の射程 1000~2000km とされており、第 2 列島線内の爆撃は十分可能である。

5月1日労働節に合わせた空軍内の士気高揚と、米国への牽制の目的をもった放映の可能性が
ある。

(4) ロケット軍

○ ミサイル地下施設の構築

5月15日付け解放軍報はミサイル地下施設を建設するロケット軍工兵中隊の奮闘ぶりを紹介する記事を掲載。ミサイル旅団基地から遠く離れた数々の場所で数年も工事を継続している状況や新たな装備・技術の導入により効率的に地下施設建設が可能になった状況を紹介⁸。



溶接をするロケット軍工兵

(資料源：中国軍網 20240515)

【コメント】

ロケット軍は専属の工兵部隊を有し、ミサイル地下格納施設の建設を実施している。2021年以降には大規模なICBMサイロの建築も確認されており、新技術等を導入し建設を継続している。

(5) 海警総隊

○ 「海警機構行政法執行手続規定」の発布

5月15日、中国海警局は「海警機構行政法執行手続規定」(原文：海警机构行政执法程序规定)を発布、6月15日から施行⁹。

同規定は、他の行政処罰法・行政強制法等に基づき、2021年に施行された「中国人民共和国海警法」の細部実施要領を明文化するものである。全16章、281条からなり、総則・管轄・現場監督検査・立件・調査証拠収集・尋問手続・行政処分決定・執行等についての細部を規定している。

特に、第257条では以下のように外国人の拘留について規定している。

「第257条

以下に列挙する出入国管理違反の嫌疑を受けた外国人は、現場或いはその後の尋問で嫌疑が晴れない場合、更に調査を進めねばならず、海警機構責任者の批准を経て、拘留審査を実施できる。

(1) 不法に出入国した嫌疑

(2) 他人の不法な出入国に協力した嫌疑

(3) 不法居留・不法就業の嫌疑

(4) 国家の安全と利益に危害を加え、社会の公共秩序を破壊、その他の違法犯罪活動の嫌疑
拘留審査の実施には、拘留審査決定書を提示し、24時間以内に尋問を行わなければならない。

拘留審査機関は30日を超えてはならず、事件が複雑で一級上の海警機構の批准を経た場合は60日まで延長できる。(以下略)」

【コメント】

2021年の「海警法」では管轄海域に関する具体的な定義は記載されておらず、一般的には海警法草案に記述されていた「内水、領海、接続水域、排他的経済水域、大陸棚及び中華人民共和国の管轄下にあるその他の海域」と理解されている。この点が、中国が「管轄海域」と定めさえすれば、海警局がどこでも一方的に法執行を主張できるという点で懸念されてきた。

今回の規定の「第2章 管轄」でも「我が国の管轄海域」の文言を使用しているが、その定義はされていない。更に、第275条は、中国が領海と一方的に主張している尖閣諸島周辺海域で活動する日本船舶やその協力者等を拘留する根拠として利用できる。

今回の規定制定は中国が一方的に指定した管轄海域での海警船の活動の細部に法的根拠を与えるものであり、今後、海警船の活動が活発化する可能性がある。

3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

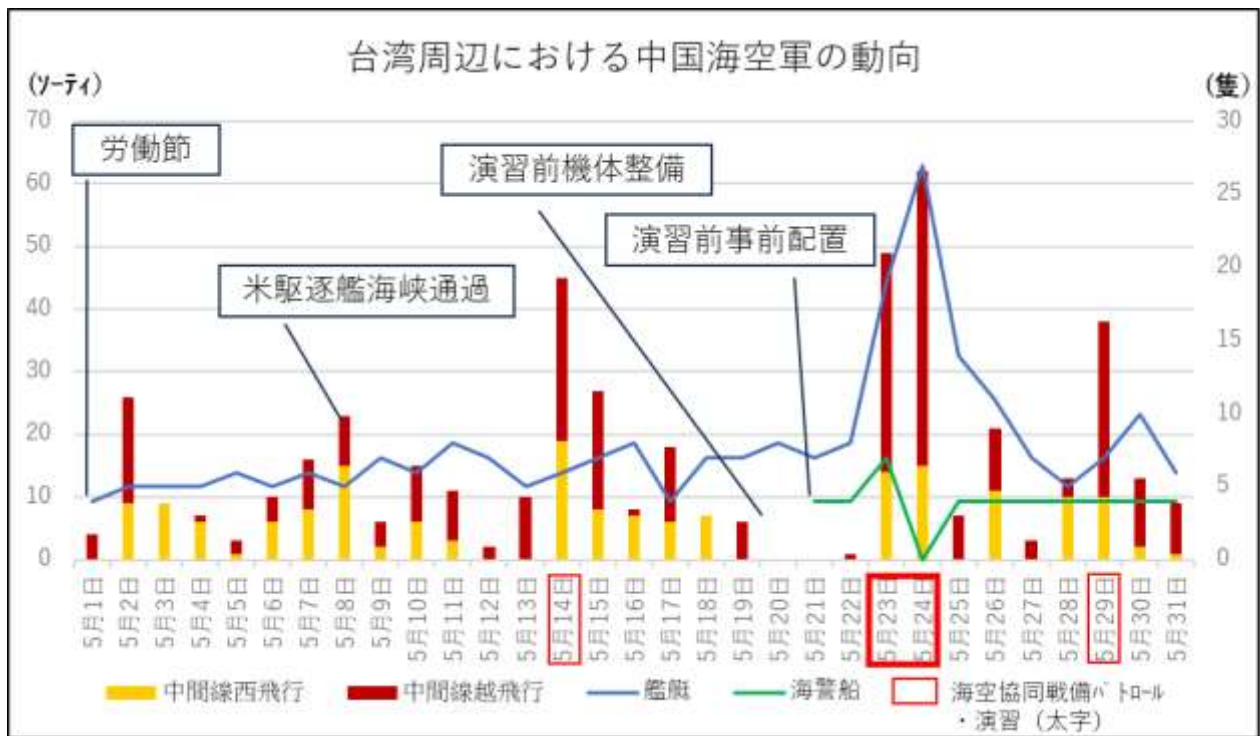
中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍の動向を纏めたのが以下の表である。

5月は中国軍機延べ469ソーティー(内、中間線超えが延べ294)、中国艦艇延べ242隻が確認。

1日における軍用機最大確認数は62ソーティー、最大中間線超え47ソーティー、海空協同戦備パトロールは2回であった。

23~24日に実施された「聯合利剣-2024A」により軍用機・艦艇共に本年最大の活動数であり、かつ演習終了後も海警船の活動が継続的に確認されるようになった。

5月8日、米駆逐艦が台湾海峡を通過、これに対して東部戦区報道官は「8日、台湾海峡を米ミサイル駆逐艦ハルゼーが台湾海峡を通過、東部戦区は海空兵力をもって通航の全行程を監視警戒、法に基づいて対処」と発言した¹⁰。



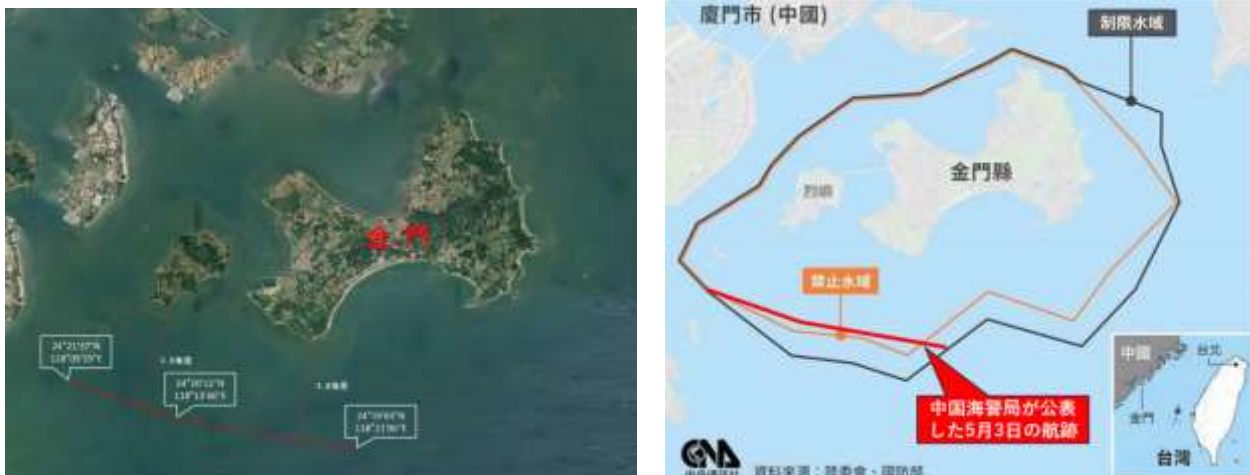
(資料源：中華民国国防部 HP を基に筆者が作成)

(2) 金門周辺海域での動向

○ 中国海警船の法執行パトロール

5月3日・6日、中国は「福建海警局が金門周辺海域で常態的な法執行パトロールを実施」と公表。3日については中国海警局がパトロールの位置を公開した¹¹。

一方、台湾海洋委員会及び海巡署によれば、5月の中国海警船の金門島制限水域での航行は9回であった¹²。



左：中国海警局が公開した5月3日のパトロール位置（資料源：中国海警局 20240503）

右：金門制限水域と海警船の航行位置（資料源：台湾中央社の図に赤線で航跡を追記）

○ 金門制限水域内における中国海警船の演習

台湾海巡署は、5月9日1200～1630（日本時間1300～1730）、中国海警船5隻、中国公船7隻、中国漁船3隻が金門南方海域を航行、海警船とそれ以外の中国公船の同時航行は初確認と発表。

公船7隻（海巡06、海巡0802、中国海監8002、中国海監8027、東海救113、中国漁政35501、華英391）は料羅南西約4カ所の金門地区制限水域において中国漁船3隻と模擬海上演習を実施。

同一の時間に中国海警4隻（14608、14512、14604、14603）が大胆島南方から禁止水域に、別の中国海警1隻（14515）が制限水域外で航行した¹³。



（資料源：中央通訊社の図に筆者が追記

写真資料源：金馬澎分署網 20240509）

○ 金門制限水域における中国軍補給船の航行

5月29日0913～0953（日本時間1013～1053）、廈門方向から出港した中国軍補給船「KD161」「KD162」が金門翟山南方の制限水域内において航行、台湾海巡署巡視艇が警告を実施した¹⁴。



（資料源：中央通訊社の図に筆者が追記）



左右共：海巡署が撮影した制限水域内を航行する中国軍艦艇（資料源：中時新聞網 20240601）

【コメント】

福建海警局は2月は2回、3月は1回、4月は1回、5月は2回のパトロール公表。一方台湾海巡署は金門島制限水域での海警船航行は3・4月各4回、5月9回と公表しており、金門周辺海域での法執行パトロールを常態化させている。

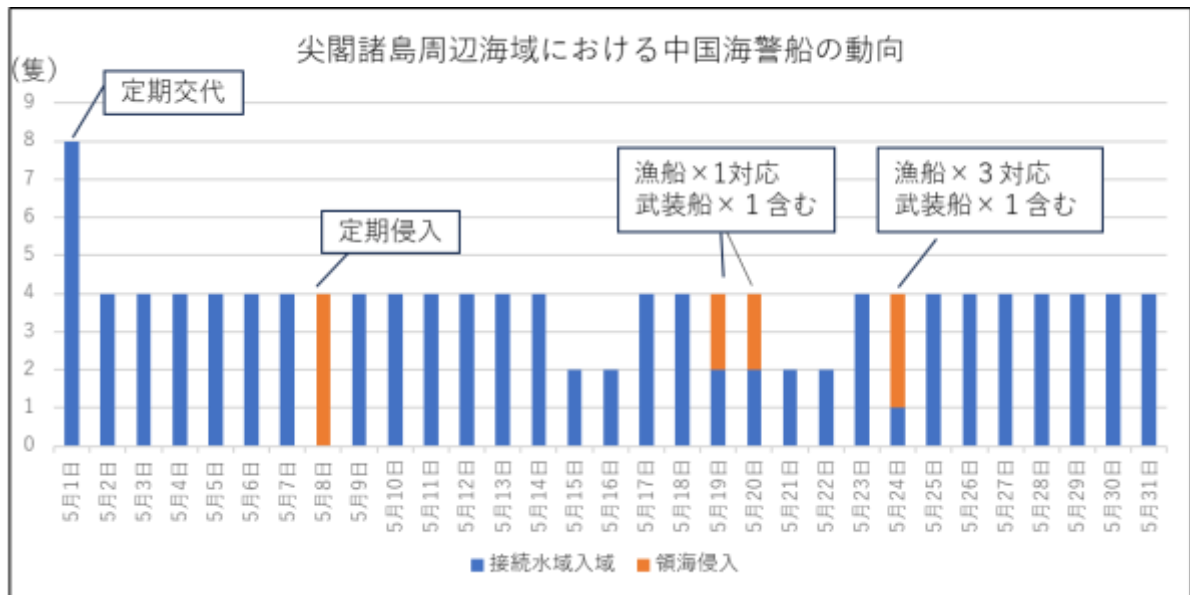
更に5月9日には初めて中国海警船とそれ以外の中国公船・中国漁船が同時に航行した。中国公船・漁船は漁船を模擬被取り締まり対象とした法執行演習または救難訓練等を実施した可能性がある。

5月29日には、戦闘艦艇ではないものの、中国軍艦艇が確認されており、軍によるプレゼンス発揮まで、エスカレートさせている。

中国は、わが国固有の領土尖閣諸島周辺海域において海警船の航行を常態化させているが、中国側が次に尖閣においてエスカレーションラダーと上げるとすれば、南シナ海での対フィリピンのような①外国漁船への放水等に加え、金門周辺のような②海警船以外の中国公船の航行、③中国漁船と公船との演習、④戦闘艦艇以外の軍艦艇の航行等、その手法が援用される可能性がある。

5 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況



(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

【コメント】

定期的な領海侵入 1 回、日本漁船 1 隻に対し海警船 2 隻、日本漁船 3 隻に対し海警船 3 隻による領海侵入を行った。侵入回数・隻数に特異事象はなかったものの、漁船対応のうち、1 隻は 30mm 機関砲搭載の武装海警船であった（先月漁船対応には武装船使用せず）。

この理由としては

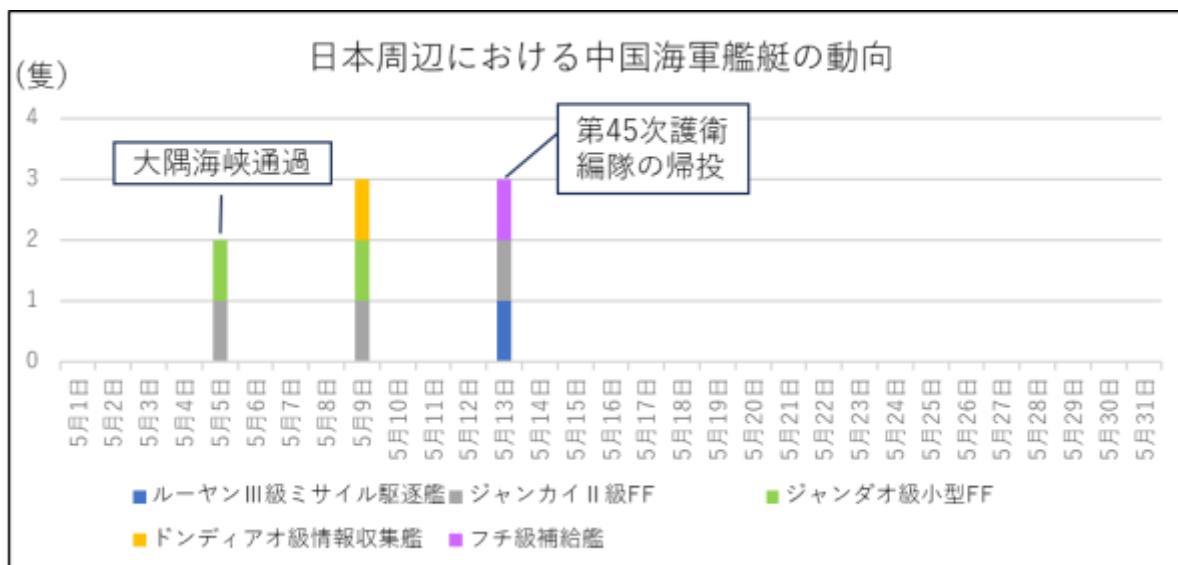
- ① 海警船の整備状況・漁船に近い航行位置等運用上の便宜性から武装船を使用
- ② 海保巡視船への対応のため武装の必要性を認識（4 月 27 日の日本調査船への対応の際には海警船 2 隻に対し海保巡視船 10 隻以上で対応¹⁵⁾）
- ③ 「海警機構行政法執行手続規定」等法体系の整備が進み、行動をより活発化の 3 つが考えられる。

①の理由であれば、今後も日本船舶には非武装船で対応しやむを得ないときに武装船を使用、という対応をとるであろうが、②③の理由であれば、武装船による対応を常態化させるという方針転換とも言え、次回以降の日本船舶への対応を注意深く見ていく必要がある。

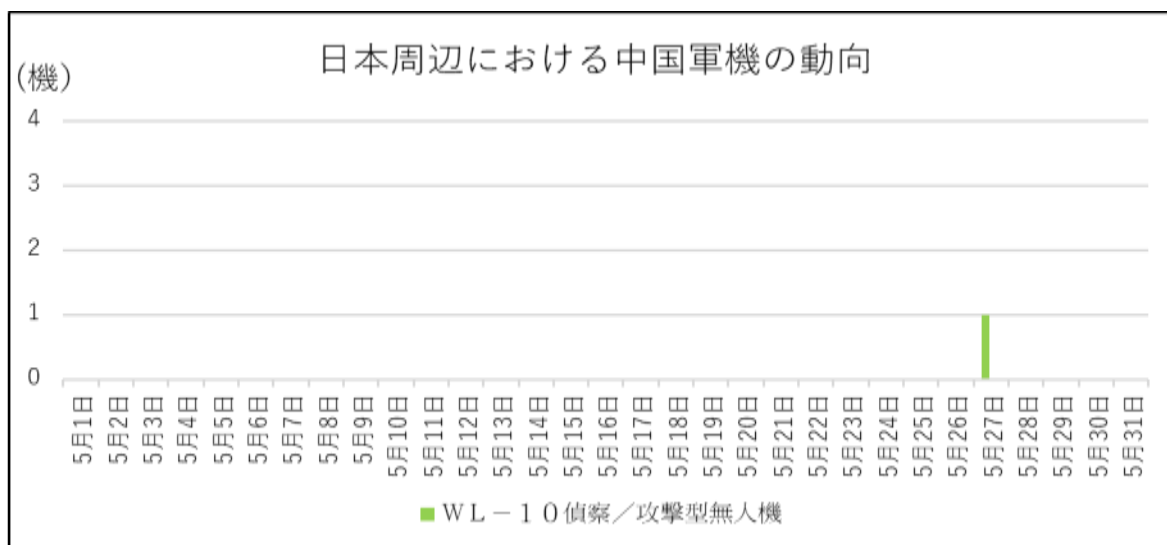
(2) 日本周辺での軍の活動状況

防衛省統合幕僚幹部発表による日本周辺における中国海空軍の動向を纏めたのが以下の表である。

5月27日にWL-10偵察／攻撃型無人機が、東シナ海の上空を飛行、対領空侵犯措置において、WL-10偵察／攻撃型無人機を確認したのは今回が初めてである。

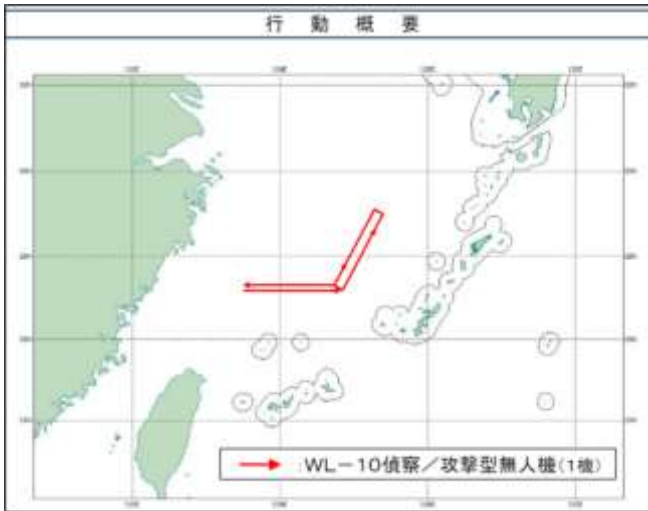


(資料源：防衛省統合幕僚幹部 HP を基に筆者が作成)



(資料源：防衛省統合幕僚幹部 HP を基に筆者が作成)

◇ 防衛省発表のWL-10の航跡等



(資料源：防衛省統合幕僚幹部 HP)

【コメント】

WL-10 は中国軍保有の「無偵-10」(中国側呼称：WZ-10、翼竜-10) 高高度高速無人偵察/攻撃機。報道による諸元は以下の通り¹⁶。

- ・最高飛行高度 14500m
- ・最大飛行速度 650 km
- ・航続距離 4000km (増槽×2 可能)
- ・レーザー・GPS 誘導爆弾、軽型対艦ミサイル等 7 種類以上の精密誘導兵器搭載可能

これまで、防衛省が公表した日本周辺で確認された中国無人機は BZK-005、BZK-007、TB-001、WZ-7 の 4 種類であり、WL-10 で 5 種類目。MALE (中高度長時間滞在型) から HALE (高高度長時間滞在型) へ、偵察機から偵察/攻撃機へと飛来する無人機は年々高度化している。

エアショーで展示中の WZ-10



(資料源：百度图片)

(3) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○「米国が日本の軍事の軛の解放を加速させているのを警戒」軍事科学院 解放軍報 20240509¹⁷

5月3日から海上自衛隊艦艇6隻が7か月の航海に出発し、米主導の演習等に参加。また先般の日米共同声明で日米安全保障条約の釣魚島（筆者注：ママ）適用を再確認する等、米国は日本の軍拡を容認している。日本に軍国主義が復活すれば、後悔するのは米国である。

○「日本の防衛体制は危険な方向に転換」陸軍工程大学 解放軍報 20240516¹⁸

近年日本は、防衛体制の転換を加速させている。国債の軍事目的への使用、戦時の使用を想定した民間空港・港湾の拡張等、一連の動向は日本が平和憲法の枠組みを打破し、有事平時の境界を曖昧にし、軍拡を加速させている危険な兆候である。

○ 日本の軍拡の新たな動向を警戒 解放軍報 20240520¹⁹

海上自衛隊が特別警備隊を海外に初めて派遣するという。5月上旬には最大規模の艦隊をインド太平洋地域に派遣しており、専守防衛の原則を超えている。日米軍事連携も深化させており、周辺国が高度に警戒するに値する。

○「国防部月例記者会見での日本関連各質問に関する報道官発言」中国軍網 20240531²⁰

日本の招きにより、中国人民解放軍第13回中青年将校代表団が5/14~20に訪日、防衛省を訪問し、防衛研究所と意見交換を行い、陸上自衛隊衛生学校、航空自衛隊小牧基地、海上自衛隊舞鶴基地等を見学した。中国側は日本側と共に努力し、相互理解・信頼を深め、相違を管理し、防衛交流の発展を推進したい。

【コメント】

4月は日米首脳会談で日米同盟強化が謳われたことから、これらへ反発した主張が解放軍報で9件確認されたが、5月は3件と減少した。

また、2019年以來になる中青年将校代表団が訪日を実施し、国防部報道官からは融和的なコメントが出されたが、記者会見以外の公式の報道ではほとんど取り上げられず、弱腰と取られるのを避けるため中国国内へは積極的に喧伝しなかった可能性がある。

6 国境地域等での活動

(1) 南シナ海

○ 米海軍の航行の自由作戦への対応

米海軍第7艦隊は5月10日、ミサイル駆逐艦ハルゼーが南シナ海において「航行の自由作戦」を実施したと公表。

南部戦区海軍は5月初旬にレンハイ級ミサイル駆逐艦、ルーヤン3級ミサイル駆逐艦等多数の主要艦艇により南シナ海で対海上艦艇・防空・対潜訓練等を実施した²¹。

また、南部戦区報道官は「5月10日、米海軍ミサイル駆逐艦ハルゼーが中国の西沙領海に不法侵入、南部戦区は海空兵力をもって警戒監視し、離脱するよう警告」と表明した²²。



右：レンハイ級ミサイル駆逐艦「遵義」 左：対空射撃の状況

(資料源：央視軍事 20240508 からキャプチャー)



ハルゼーを監視する南部戦区海軍
(資料源：南部战区微信公众号 20240510)

【コメント】

4月には米中海上軍事安全協議メカニズム作業グループ会議が開催されたものの、南シナ海における米中の対応は双方変化なく平行線。中国は米軍との直接対峙は回避したいものの、国内外に弱腰の姿勢は見せられないため、監視状況や1万トン級のレンハイ級駆逐艦等の南シナ海展開を喧伝した可能性がある。

○ スカボロー礁周辺海域での動向

中国は、5月13日以降、海警編隊がスカボロー礁（中国名：黄岩島）にて常態的な法執行パトロールを実施と表明。中国漁船に対して危険に遭遇したら通報するよう呼びかけると共に、比漁船に対しては侵入しないよう警告。

更に以下のように、周辺海域で海難救助訓練、比船への取り締まり活動を実施した。

◇ 中国海警船による海上救難訓練²³

5月13日、某日に中国海警船がスカボロー礁周辺海域で海上救難訓練を実施、同海域における常態化訓練の一環としている。



左右共：海警船の救難訓練の状況（資料源：玉淵譚天 20240513）

◇ 比漁船への取り締まり活動

5月16日、比船舶がスカボロー礁の東60カ所に集結し示威行動を実施したのに対し、中国側は「中国海警は比の不法な船舶集結を取り締まった」と報道²⁴



左右共：比の示威行動船舶（資料源：中国軍号 20240516）

【コメント】

南シナ海における比への強硬姿勢は継続。海警船による海上救難訓練や比船舶の取り締まりをアピールし、実効支配の強化を図っている。

特にスカボロー礁においては海上民兵を利用した対応が確認された。

下図は5月17日のスカボロー礁周辺海域での中国海警船・海上民兵船の状況である。



上図①「5月17日1448の船舶状況」は比船舶が示威行動をした翌日のスカボロー礁周辺海域においてAISで確認された中国船舶の状況である。

黄色い三角20隻すべてがQIONGSANSHAYU(琼三沙漁)の船名を有する海南省三沙市漁業発展有限公司所属の漁船であり、そのうちの1隻「QIONGSANSHAYU00310」の写真②では放水銃を搭載しているのが確認できる。

米海軍情報局では③「SANSHA CITY MARITIME MILITIA」の項目でQIONGSANSHAYUを「三沙市海上民兵」として分類している。

また、①の赤の三角は海警船であり、集結した海上民兵船を防護するように航行している。

中国は、南シナ海の領有権問題係争海域において、海上民兵漁船を最前線に、その外側を海警船という配置で実効支配を強化している。また、AISでは確認されないがその更に外側には中国海軍艦艇が配置されている可能性がある。

(2) 黄海

5月6日、豪国防省は「5月4日、豪艦艇ホバートが黄海の国際水域で対北朝鮮制裁の通常任務に当たっていたところ、中国空軍戦闘機がホバートから発進した MH-60R 海軍ヘリの航路を遮り、照明弾を投下した。被害はなかったものの、中国を含むすべての国がプロフェッショナルかつ安全に軍を運用することを期待する」との声明を発表した²⁵。

これに対し5月4日、国防報道官は「豪側の発言は全く逆で、これに断固として反対する。5月3～4日、中国海軍艦艇が黄海で訓練中、豪ミサイル駆逐艦ホバートの艦載ヘリが3度に渡り接近して偵察を実施。中国側はこれを警告・排除。一連の行動は正当で、プロフェッショナルで安全であり、完全に国際法に合致。豪に虚偽の拡散や危険挑発行為を停止し、中豪両軍関係を損なわないよう求める」と発言²⁶。

【コメント】

報道によると、中国軍 J-10 戦闘機が、豪ヘリの約 300m 前方に照明弾を投下した。

中豪間では、2023年11月14日には、豪フリゲート艦トゥーンバがプロペラにかかった漁網を取り除くため、日本の EEZ 内で潜水作業を行っていた際、中国海軍艦艇が接近、潜水作戦の通告をしたにもかかわらず更に接近しソナーを作動させたため、潜水士が軽傷を負う事案が発生している。

中国は従来米豪の軍事協力に反発してきたが、特に 2021 年 AUKUS 発足以来、これが核拡散や地域の軍事的対立をあおるものとして強く反対している。

最近の解放軍による豪軍への強硬姿勢は豪への牽制の一環の可能性がある。

6 軍事外交・協同訓練

(1) シャングリラダイアログ

5月29日～6月3日、董軍国防相はシャングリラダイアログに参加すると共に、シンガポールを訪問した。

31日にはオースティン米国防長官と会談し、米中両軍は衝突せず・対抗せずとの最低ラインは順守すべきであると一致したものの、台湾や南シナ海については従来通りの主張を繰り返した²⁷。

また、この他シンガポール、加、泰、日本、豪、仏、カンボジア、ニュージーランド等の代表と会談したが、6月6日時点において会談の内容が公式報道されたのは米とシンガポールのみであった。



董軍国防相（右から2人目）とオースティン国防長官（左手前から2人目）

（資料源：ロイター時事20240531）

【コメント】

米中国防相は先月の4月16日にTV電話で会談し、今回は対面での会談となった。両国の主張は従来通りであり、公表された内容からは歩み寄りは見られなかった。

今回、中国側が会談内容を報道したのは米国とシャングリラダイアログ開催国のシンガポールだけである。中国にとって米国が主敵であり、軍事力整備のみならず軍事外交努力も米国に集中させている、と内外に示した可能性がある。

(2) モンゴル（以下、蒙）

○ 中・モンゴル（以下、蒙）合同演習「草原パートナー2024」

初の中国・蒙合同陸軍演習「草原パートナー2024」が5月12～19日の間、実施された。中国側は第79集団軍隷下の某旅団が5月6日以降、エレンホト国境を通過し、蒙ドルノゴビ省の演習場を集結。不法武装集団への対応を演練した²⁸。



【コメント】

蒙は2023年8月、オヨーンエルデネ首相が訪米し、「米蒙の戦略的第三隣国パートナーシップ」に関する共同声明を発表、国境を接していないものの、米を外交上の「第三の隣国」として、「包括的戦略パートナーシップ」を結ぶ中国と同様に位置付けた。また、2024年3月にキャンベル国務副長官が蒙を訪問。中国SNSではこの際、蒙は米側の蒙国内での米軍基地建設を要請を却下したとの記事も散見される。

米軍基地要請の真偽は不明なるも、今回初の中蒙共同演習を実施することにより、ウクライナ侵略により露の周辺国への影響力が低下する蒙において、米蒙の関係強化を牽制する企図を有している可能性がある。

(3) カンボジア (以下、東)

○ 中東共同演習「金龍 2024」

5月16～30日、第6回中東共同演習「金龍 2024」が実施。南部戦区陸海空軍及び聯勤保障部隊760名、東軍1315名が参加。共同対テロ・人道支援をテーマに人質救出、拠点掃討等を演練²⁹、中国指揮艦が中東共同編隊を指揮する状況や、中国軍人が無人機の取り扱いを説明し、無人機を活用した訓練を実施する状況が確認された。

訓練はコンポンチナン省の訓練場とシアヌークビル港付近の海域で実施された³⁰。



【コメント】

今回の半月に渡る共同演習では、中国側が東側に装備の取り扱いを教育する状況が多く確認された。また、シアヌークビル港近くのリアム海軍基地は2022年から中国の支援で拡張工事が行われており、2023年12月から2隻の中国海軍ジャンタオ級小型フリゲート艦が停泊している。

中国は東への武器輸出を前提とした共同訓練を実施すると共に、ASEANにおける政治的軍事的拠点としての東の取り込みを行っている可能性がある。

【参考文献】

上記記述の資料源は以下の通り。

なお、資料源の記述のないものは筆者の分析により、可能性ありと評価したものである。

- 1 东部战区官方账号 20240523
<https://new.qq.com/rain/a/20240523A00TTM00>
- 2 中国軍網 20240511
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-05-11&paperNumber=03&articleid=930821
- 3 中国軍網 20240509
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-05-09&paperNumber=02&articleid=930687
- 4 環球網 20240430
<https://mil.huanqiu.com/article/4HbI5cQZMzd>
- 5 中華人民共和國海事局 遼航警 149/24
<https://www.msa.gov.cn/page/article.do?articleId=D5516EB7-9869-48B8-8653-5DD836C25C8C&channelId=C8896863-B101-4C43-8705-536A03EB46FF>
- 6 J anes20240503
<https://www.janes.com/defence-news/news-detail/chinese-bomber-launches-new-ballistic-missile>
- 7 軍事報道 20240501
<https://tv.cctv.com/2024/05/01/VIDEztZxUsfIwhMV519LtOwI240501.shtml?spm=C52346.PiumOrlYLNUM.E0VXtwLj8YU7.8>
- 8 中国軍網 20240515
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-05-15&paperNumber=05&articleid=931072
- 9 央視網 20240515
<https://military.cctv.com/2024/05/15/ARTIzfJnuyydAxV8waCvH4PM240515.shtml>
- 10 “东部战区”微信公众号 20240508
<https://weibo.com/n/%E4%B8%9C%E9%83%A8%E6%88%98%E5%8C%BA>
- 11 中国海警局 20240503
https://www.ccg.gov.cn/2024/wqzf_0503/2457.html
- 12 中央通訊社 20240529
<https://www.cna.com.tw/news/acn/202405290255.aspx>
- 13 海洋委員會海巡署 20240509
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=160424&ctNode=650&mp=999>
- 14 中時新聞網 20240601
https://www.chinatimes.com/cn/realtimenews/20240601001187-260407?ctrack=pc_main_alert_p01&chdtv

- 15 産経ニュース 20240428
<https://www.sankei.com/article/20240428-YWMKE6TCZ5KRDBGB6C3BDSRSA/>
- 16 中時新聞網 20240530
<https://www.chinatimes.com/realtimenews/20240530001405-260407?chdtv>
- 17 解放軍報 20240509
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-05-09&paperNumber=11&articleid=930707
- 18 解放軍報 20240516
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-05-16&paperNumber=11&articleid=931149
- 19 解放軍報 20240520
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-05-20&paperNumber=04&articleid=931562
- 20 中国軍網 20240531
http://www.81.cn/yw_208727/16312670.html
- 21 央視軍事 20240508
<https://m.weibo.cn/status/50317629278138>
- 22 南部战区官方微博 20240510
<https://weibo.com/u/7468777622?lpage=profileRecom>
- 23 玉渊谭天 20240513
<https://weibo.com/u/7040797671>
- 24 中国軍号 20240516
<https://weibo.com/u/7739029497?lpage=profileRecom>
- 25 豪国防省 HP20240506
<https://www.defence.gov.au/news-events/releases/2024-05-06/statement-unsafe-and-unprofessional-interaction-pla-air-force>
- 26 国防部網 20240507
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16306361.html>
- 27 国防部網 20240531
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16312968.html>
- 28 中国軍網 20240506～20
http://www.81.cn/yw_208727/16306086.html 等
- 29 中国軍網 20240511～31
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-05-11&paperNumber=04&articleid=930803 等
- 30 聯合報 20240515
https://udn.com/news/story/7331/7964437?from=udn-catelistnews_ch2

中国軍事動向月報 2024年5月

2024年6月7日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。